

2021年11月1日

コントロールされた光のペインティングによって「ヘテロトピア」を出現させる森本啓太の日本で初の個展「After Dark」を開催。



森本啓太 《Bathing Light》2021

KOTARO NUKAGA（天王洲）では、2021年11月20日（土）から12月25日（土）まで、森本啓太による個展「After Dark」を開催します。15年にわたり滞在し、制作活動の拠点を置いていたカナダから今年帰国したばかりの森本にとって、母国で初開催となる本展では、新作のペインティング21点を展示いたします。

森本啓太は16歳でカナダに移住し、その地で初めて絵画制作について学びました。なかでも古典絵画の技法や構図に関心を持ち、バロック期の絵画のように完璧にコントロールされた光の表現と、現代社会における日常的な風景をモチーフとして折衷的に組み合わせることにより、独自のリアリズムの地平を切り開きます。特別ではないありきたりな風景の中に美しさや神秘性を生み出し、誰でもない誰かが主人公になる独自のナラティブを生成するその手法は、エドワード・ホッパーやピーター・ドイグなどに代表される「マジックリアリズム」の系譜に位置づけられつつも、現代社会を見つめる冷静な眼差しによって鑑賞者に新鮮な視座をもたらします。

本展で展示されるシリーズにおいて森本は、レンブラントをはじめ美術史の中でも人々を魅了し、神秘的、宗教的に扱われてきた「光」というモチーフを自然的や神聖な現象だけでなく、現代の消費社会の中で人々を惹きつける自動販売機やファーストフード店、駐車場の電飾サインなどにまで拡張し、21世紀の日常的な経験を描き出しています。また、森本は描き出す夜の風景を意図的に特別な場所として特定しうるアイコニックなシンボルから遠ざけます。明るすぎる現代の東

京から見過ごされてしまう街の片隅、利用者の少ないローカルな電車の駅、どこかのように見えてもどこであるか思い出せない丘の上、それら特別でない場所にある光をコントロールし、誰とも言えない人物を登場させます。森本は日常生活における通過地点、つまり、アノニマスな場所に光をあて、その闇と光のコントラストによって、一時的に私たちが現実世界から逸脱し、逃げ込める場所「ヘテロトピア」を描き出しているのです。鑑賞者である私たちは森本が作り出したこの、どこかで見た風景のようではあるがどこでもないこの場所、つまり「ヘテロトピア」へと誘われるのです。

20世紀のフランスの思想家、ミッシェル・フーコーが唱えた概念であるこの「ヘテロトピア」とは「ヘテロ=ちがう」と「トピア(トポス)=場所」からなる概念で、「他なる場所」を意味します。フーコーは「生きづらさ」やそれを生み出す権力などについて考え続けた哲学者でした。「ユートピア」が神話的で架空の場所から現実に異議申し立てをするために構想されることに対し、「ヘテロトピア」は、現実に存在するが、他のすべての場所に対して絶対的に他なる場所であり、それらすべての場所を内側から無効化してしまうような「反-場所」とであるとフーコーは考えました。つまり、生き苦しさを生み出す現実に対して異議申し立てをし、それに抵抗するためには、架空の世界ではなく、現実世界のその内部に「ヘテロトピア」を構築し、そこにそれとは全く別の現実世界を作り出すことが必要だとしたのです。

「現代社会において、多くの人が生き苦しさを抱えている」と、森本は言います。特にそれは相互監視の社会システムが作られ続けている現代において、私たち自身が無意識のうちに自分自身の外側に規定される価値観に対し、自身の意識を向け過ぎていることで生まれているのではないかと森本は考えています。森本は絵画を描くことで、そういった現代社会の抱えるある種の「生きづらさ」から軽やかに逸脱をしてみせているのです。

私たちはどれだけ何かを奪われたとしても、何気ない日常を特別なものにするという「自由」、つまり自分自身のあり方を決める「自由」は奪われることはないのだということを森本の作品は示唆しています。日常のあらゆる場所に「ヘテロトピア」を出現させること、そこで独自の物語を紡ぐこと、それら日常に彩りをあたえることのすべては、その世界とどう向き合い触れるのかという私たちの選択に委ねられているのです。

■開催概要

森本啓太「After Dark」

会期: 2021年11月20日(土) - 12月25日(土)

開廊時間: 11:00-18:00 (火-土) ※日月祝休廊

※国や自治体の要請等により、日程や内容が変更になる可能性があります。

■会場

KOTARO NUKAGA (天王洲)

〒140-0002 東京都品川区東品川 1-33-10 TERRADA Art Complex 3F

アクセス: 東京臨海高速鉄道りんかい線「天王洲アイル駅」から徒歩約8分、東京モノレール羽田空港線「天王洲アイル駅」から徒歩約10分、京急本線「新馬場駅」から徒歩約8分

■アーティスト

森本啓太 | Keita Morimoto



1990年大阪生まれ。2006年16歳の時にカナダへ移住。2021年に日本へ帰国するまでの15年間をトロントで過ごす。現在は東京を拠点に活動。カナダではオンタリオ州ベルビルのセンテニアル中等学校で高校を卒業後、2012年にオンタリオ芸術大学（現在のOCAD大学）で美術学士号を取得。彼の作品は、トロントの現代美術館であるMOCA（Museum of Contemporary Art Toronto Canada）やトロントのNicholas Metivier Galleryなど、カナダを中心に英国、アメリカなどでも展示されている。森本はトロントの街並みとその住民の描いた絵画でよく知られており、クラシカルな技法を現代に持ち込み日常的な風景を非日常的なものへと変換し、見えている現実世界の構造的な脆弱さと人が生きていく上で必要とする本来の豊かさの獲得についての問題を浮かび上がらせる。

■作品



森本啓太《Last Train》2021



森本啓太《Night Walk》2021



森本啓太《After Light》2021

■お問合せ

KOTARO NUKAGA 担当：加藤

EMAIL: info@kotaronukaga.com URL: www.kotaronukaga.com

TENNOZ: TEL +81(0)3 6433 1247 / FAX +81(0)3 6433 1257